

情報ワイド

1月22日 京都新聞文化センターが会場

新聞やテレビのニュースを読み解き、活用する力を測る「ニュース検定」（ニュース時事能検定試験）が11月22日に行われる。今年から京都新聞社が主催に加わり、京都の検定会場は都新聞文化センター（京都市中京区烏丸通夷川上ル）に開設される。検定は、大人が日ごろニュースの知識を試すのはもちろん、未来の社会を担う子どもたちにニュースを読み解く力身につけてもらうためにも活用できる。特に毎日の新聞を活用して力を伸ばすことが重要だ専門家は指摘する。京都でNIE（教育に新聞を）活動に長年たずさわってきた京都文教大橋本祥夫准教授（53）に聞き、新聞活用に取り組む小学校を取材した。（古市大）

新聞めぐり「問題意識」育む

スマートフォンが普及して、関心のあるニュースや話題は検索して詳しく知ることができるようになりました。でも、新聞には自分が興味がないニュースもふと目にとまって読みたくなる、という予想外の出会いがあります。スマホより紙面で見た方が、インパクトがあつて記憶に残るのではないかでしょうか。

パラパラと紙面をめくつて見出しと写真をざっと見るなり、1分で読み切ることができます。5分あればニュースを1本読めるでしょう。新聞は一覧性にすぐれ、簡単に全体をとらえることもできるし、詳しく読むこともできます。

私は2015年に「子ども記者クラブ」の活動を始め、子どもたちといっしょに宇治や城陽の商店街、農家を取材しています。今年

NIE活動行う 橋本祥夫 京都文教大准教授に聞く



ニュースを通して地域の未来や課題を考える大切さを語る橋本祥夫准教授
(14日、宇治市槇島町・京都文教大)

取材を通して、地域で働く人たちの親切や特産の魅力に触れ、自分たちが住むまちを好きになつていきました。そして、地域の未来や課題を考えるようになりました。

何を取り扱うか考え、質問するためには、地域の課題を考える「問題意識」が必要です。問題意識や好奇心は、まず知識がある分野に広がっていきます。

私は子どもたちも一人の市民として、まちの将来や課題に意見を持つべきだと考えます。ネットでは詳細に読めないわがまちのローカルニュースを新聞で継続的に読むことで、そういう力が育まれると思います。

ニュース検定は、世の中についての知識を測るものさしになるでしょう。幅広い知識を得て、自分なりに社会に対する考え方を育んで

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、「テレワーク」を導入する会社や役所が増えてきました。テレワークとは、パソコンなどの情報通信技術（ICT）を活用して【A】などで仕事をする働き方のことと、【B】ともいいます。【A】【B】に当てはまる言葉の正しい組み合 わせを、①～④から一つ選びなさい。

① A-自宅 B-リモートワーク
② A-自宅 B-ライフワーク
③ A-会社 C-ネットワーク
④ A-会社 D-ハードワーク



授業が始まる前の午前8時半、6年生たちが廊下の棚にある一般紙や小学生新聞で感想を話し合って、京都府西京区の竹の里小を取り材した。

△ 正解は①

会社で2020年2月に「少ない職場」を京都府立総合文化館の企画で開催されました。

聞を選んで読み始めた赤鉛筆で線を引いたり、辞書で分からぬ言葉を真剣な表情で調べている。10分が記事を紹介する新聞ス

取り上げた。「私ならつらい病気になつた後、頑張ることができないかもしない。みんなはどう感じたの」と問い合わせた。
「水泳が大好きだから頑張れるんだと思ふ」「闘病前との差は大きいのでは。お年寄りになつて、できていたことができなくなるのは同じように悔しいだろうな」とクラスメートが次々と感想を話した。
新聞スピーチで身についたことを振り返つてもらつた。「興味がなかつたこと、小さなニュースにも注目するようになつた」(高橋紀君)、「みんなの意見を否定せずに聞くことで互いを認め合う力がついた」(村西姫乃さん)
担任の藤江智美教諭(38)は当初より関心を持つ記事が政治や国際問題へと広がり、コミュニケーションも活発になつたといふ。「一人一人がどんな記事を紹介しようかと日常的に探し、互いの考えを知ることが刺激になつて社会への関心が高まつた。ニュース検定は興味のある分野だけでなく、幅広く知ろうとする力になつた」と思ふ。(吉)

読者と
つながる

ニュース 検定

子に読み解く力を

授業に活用 社会に関心

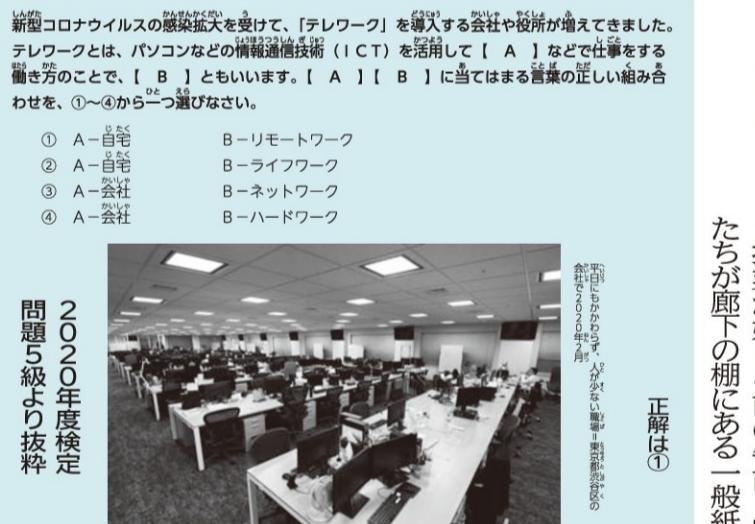
西京・竹の里小



たちの 毎朝10分間、新聞から気になる記事を探して
読む児童たち(京都市西京区・竹の里小)

ニュース検定とは、ニュース検定は2007年から始まり、これまでの志願者は47万人を超える。1級から5級まで小学生から社会人まで幅広い世代が挑戦できる。合格者は全国約400校の大学・短大の推薦入試などで優遇されるほか、就職活動では筆記テストを免除する企業もあり、高く評価されている。問題は政治、経済、暮らし、社会・環境、国際の5分野で、検定日の約1ヶ月前までのニュースが対象。2～5級の検定問題は、2020年度公式データベース・問題集から約6割が出題される。小学生は社会科から多く出題される4級、5級の受検が最適だ。

11月22日の検定は公式サイトや京都新聞社などで配布している申込書で。締め切りは公式サイトが10月14日、申込書が10月7日。問い合わせは検定協会事務局03（5209）0553。



う「闘病前との差は大きいのでは。お年
聞を選ん
で読み始
めた。赤
鉛筆で線
を引いた
り、辞書
で分から
ない言葉
を真剣な
表情で調
べてい
る。
10 分
後、当番
が記者を
紹介する
「新聞ス
ラ」へ話す。

くるのは同じように悔しいだろうな」とクラスメートが次々と感想を話した。新聞スピーチで身についたことを振り返つてもらつた。「興味がなかつたこと、小さなニュースにも注目するようになつた(高橋紀君)、「みんなの意見を否定せずに聞くことで互いを認め合う力がついた」(村西姫乃さん)

担任の藤江智美教諭(38)は当初より関心を持つ記事が政治や国際問題へと広がり、コミュニケーションも活発になつたという。「一人一人がどんな記事を紹介しようかと日常的に探し互いの考えを知る」ことが刺激になつて社会への関心が高まつた。ニュース検定は興味のある分野だけでなく、幅広く知ろうとする力になら